

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）

令和7年度10月入学・令和8年度4月入学試験問題

【 一 般 選 抜 】

【 外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜 】

生活文化学専攻

〔 専 門 科 目 〕

試験日：令和7年7月5日(土)

注 意

1. 試験科目は、受験票の志望研究領域の第1志望に記入した科目を選択すること。
選択にあたっては、別紙「志望専攻・コースごとの受験すべき試験科目について」を参照すること。
2. 解答は、別添の解答用紙を使用すること。必要に応じて複数枚を使って構わない。
(2枚同封, 3枚目以上は監督者に申し出ること。)
3. 使用する解答用紙のすべてに受験番号, 氏名及び選択した試験科目名を記入すること。
4. 総ページ数 — 4ページ (1ページ目は下書き用紙)

試験科目名：社会心理学

1 集団への凝集性が高まると、集団にはどのような変化が生じると予測できるでしょうか。ポジティブな側面、ネガティブな側面の両方から論じなさい。

2 以下の図は、気候変動への意識を調べるために 125 カ国において実施された調査(Andre et al., 2024)の結果です。この調査では自分は収入の 1%を毎月地球温暖化への対策のために寄付するつもりがあるか、また他の人は 100 人中何人の人が寄付すると予想するかを尋ねています。この図からどのような結果が読み取れるでしょうか。また、なぜこのような結果になったと考えられるか論じなさい。

結果表は著作権の関係で掲載しておりません。

注：

1 Gap between the global and country proportions of respondents who are willing to contribute 1% of their income (circles) and the global and country average perceived proportions of others willing to contribute (triangles). The reported significance levels result from two-sided t-tests testing whether the proportion of individuals who are willing to contribute is equal to the average perceived proportion.

2 WTC: Willingness to contribute

3 次の用語について、それぞれ簡潔に解説しなさい。(注：c,d は統計用語です)

a) Social dilemma

b) Spiral of Silence

c) 重回帰分析

d) 散布図

引用

Andre, P., Boneva, T., Chopra, F., & Falk, A. (2024). Globally representative evidence on the actual and perceived support for climate action. *Nature Climate Change*, 14(3), 253-259.

試験科目名：表象文化論

表象文化論を志望するものは以下の設問に答えなさい。

1. 以下から 3 問を選択して、その用語について説明しなさい。

- (1) 日本画
- (2) カノン
- (3) 「作者の死」
- (4) 窺視
- (5) 「文化産業」

2. 以下から 1 問選択して、それについて説明しなさい。その際、具体的な作品（アーティスト名、制作年代含む）を複数挙げながら、その社会背景についても言及すること。

- (1) フェミニズム・アート
- (2) アール・ブリュット

3. アート界のジェンダー的課題は、1980 年代以降、様々な研究・活動の層で指摘され、その状況が分析されてきた。特に 2000 年代以降、「アート」の枠組みや構造、素材や主題などを問う議論がなされるとともに、ジェンダー的視点から作品が制作され、フェミニズム批評も確立された。

この 2000 年代以降のアート界におけるジェンダー的状况を三つ以上の論点（研究、理論、議論、作家、作品、展覧会、アクション等）から説明しなさい。

試験科目名：比較歴史学

1. トマス・ラカーは『セックスの発明』（初版 1990 年）のなかで、歴史的に不変と考えられていた性の二元性とは、実は近代に確立したモデルであることを、「ワンセックス・モデル」、「ツーセックス・モデル」という言葉を用いて示しました。

(1) 「ワンセックス・モデル」、「ツーセックス・モデル」とは何か、それぞれ説明しなさい。

(2) ラカーの主張の内容を具体的な事例を挙げながら説明しなさい。

2. 以下は、1890 年から 2006 年を対象に、女性に参政権を付与した国の数がどのように推移してきたかを示したグラフです。

グラフは著作権の関係で掲載しておりません。

(出典：Jad Adams, *Women and the Vote: A World History*, Oxford University Press, 2014, appendix 2.)

(1) 二つの世界大戦（WW1 および WW2）を機に、女性に参政権を与える国の数が増加していることがわかります。このような現象が起こるのはなぜでしょうか。考えられる理由を複数挙げなさい。

(2) 2000 年以降もいくつかの国で女性に参政権が付与されています。これらの国の共通点と、女性参政権の実現が「遅れた」理由について説明しなさい。

(3) 中国と日本を「女性参政権の歴史」という大きな流れのなかに位置づけたとき、どのような特徴が浮かび上がってくるのでしょうか。中国、日本、それぞれについて論じなさい。